

【評議員会議事録】

日 時：2010年7月3日（土）午後1時～5時10分

場 所：東京大学理学部1号館338号室

出席者：伊藤、岡村、奥村、牧島、嶺重、劉、家、坂田、杉山、筒井、望月（以上11名）

表決状提出者：井上、海部、須藤、渡部、池内、谷口、観山（以上7名）

欠席者：佐藤、山田（以上2名）

他に國枝理事長、柴田・渡邊副理事長、竹田・高田庶務理事、田代・田村会計理事、宮下事務長、が出席した。

議事に先立ち、出席者と表決状提出者を合わせて18名となり定足数をみたし、本会が成立することが確認され、議長と署名人が選出された。

議長：牧島一夫

署名人：家 正則、伊藤紘子

また資料1に基づいて前回（2010年3月27日）の評議員会議事録の確認が行われた。

1. 報告

1-1. 理事会報告

竹田庶務理事より6月19日に行われた理事会で報告・議決されたことが口頭で簡潔に報告された。この種の報告はやはり手元に資料があったほうがよいとの意見が出され、これからは直近の理事会の議事録がほぼ完成している場合は、それを資料として添付することになった。

1-2. 来期新委員会メンバー

竹田庶務理事より資料2に基づき、先日の理事会で承認されて決定した次期（2011年1月1日～2012年12月31日）の各種委員会新委員メンバーが報告された。これに関連して國枝理事長から、あまりに長期間連続で委員を務めている方には交代してもらおうようお願いしたケースがあったことについての補足説明もあった。

1-3. 若手の会からの報告

劉評議員より当日配付資料に基づき、天文学会年会参加の際の学生会員への旅費補助制度について若手の会メンバーに対して実施したアンケートの結果が報告された。支援には感謝している、支給額をなるべく事前に知りたい、余裕のある学生は申請は控えるべきだ、などの意向がうかがわれるものであるが、「回答がたった11名というのは少ない」、「具体的に学会側にどうして欲しいのかということがはっきりしない」、「せっかく旅費が支給されていても取りにこない学生がいるのは不謹慎」、などの意見が出された。若手の会としてはさらに多くの学生の意見を知るべく今後夏の学校などでもこの問題を取り上げていくことになった。

1-4. 文科省実地検査報告

宮下事務長より資料3に基づき、5月25日の文科省の実地検査で指摘された種々の点が報告され、またそれに対してどう対処することに決めたかについての説明があった。予算計画の記載方式の改善、学会と取引のある業者が会員の場合など最良と見られないようオープンな形での契約に努める、役員が無報酬であることをきちんと細則で定める、など。

1-5. 全国同時七夕講演会

柴田副理事長より当日配付資料に基づき、昨年に引き続き本年も全国で開催することになった全国同時七夕講演会についての概要と事前報道状況の報告があった。7月3日時点の集計で83会場、89講演の予定（日時の異なる講演会は別会場と見なす）。またこのイベントの一環として、京都の小中高生を対象に京都府教育委員会との連携で実施することになった「天文学出前授業」についての説明があった。

（出前授業の担当者数は30人、会場数は47。それを考慮すると全国同時七夕講演会の会場数は130会場。）

1-6. 天文学会の男女共同参画連絡会オブザーバー学会への移行

資料4に沿って男女共同参画委員会の黒田委員長の代理として同委員でもある望月評議員より、男女共

同参画学協会連絡会において日本天文学会が正式加盟学会からオブザーバー加盟学会へ移行する旨について、報告があった。男女共同参画委員会内で協議の結果、正式加盟の要諦である連絡会運営委員会への出席がなかなか適わないこと、他学会との連携や情報収集にはオブザーバー加盟で十分に責が果たせると判断したこと等が理由である。

1-7. 日本天文協議会について

國枝理事長から、世界天文年日本委員会の自然な継続としてこのたび新たに発足する日本天文協議会（日本の天文研究・教育・普及・アマチュア活動を結ぶ全国組織）に日本天文学会も代表を送って協力することになったいきさつの説明があった。

2. 議題

2-1. 次期理事長推薦について

渡邊副理事長より資料5に基づき、この春に実施した次期理事長候補者公募において推薦を受けた候補者は岡村定矩氏1名のみであったので選挙は実施しなかったこと、したがって選挙管理委員会からは岡村氏が候補として本評議員会に提出されたこと、が報告された。これに対して意見の交換があり、岡村氏を正式に評議員会から理事長候補として総会に推薦することが承認された。またこのような理事長推薦という特別に重要な案件がある場合は選挙管理委員長も評議員会に出席して意見を述べてもらうべきだとの指摘もなされた。

2-2. 次期役員・選挙管理委員

竹田庶務理事より資料6に基づいて、次期（2011年1月1日～2012年12月31日）の新役員・選挙管理委員の候補者についての紹介が行われた。監事の候補者に本年末で退任予定の現理事が含まれていることについて、「現理事が直接間接にかかわっている本年度の予算・事業について任期満了直後に新たに監事の立場で査定するのは不適切ではないか」との指摘がなされた。議論の結果 牧島評議員を新たな監事候補として原案の候補と交代してもらうことに（本日居合わせた当事者の両人の了解を得たうえで）決まった。この点を変更したうえで、他の役員・選挙管理委員の候補は了承されて総会での承認に向けて提出されることになった。

2-3. 2011年度事業計画書案

資料7に基づき、竹田庶務理事より2011年度事業計画書案が紹介された、特に今回からは外部の人が読んでもわかりやすいように、補足説明などを新たに付け加えたので、その変更内容を中心に説明が行われた。事業計画という趣旨にそぐわない文章構成が見られる点や、あまり適切でない言葉遣いなどの指摘があったが、これらの点を修正することを条件にして了承された。

2-4. 2011年度収支予算書案

田代会計理事より資料8に基づいて2011年度収支予算書案について説明が行われ承認された。ただ表記形式がわかりにくいのもっと見やすくできないかとの指摘があった。またこれに関連して、今後の天文学会の財政状況の見通しについての議論があり、「長期的に見て、赤字解消のためには会員（特に正会員）の数の増加による会費収入の増大が望ましい」という会計担当理事の発言に対し、「独自の天文関連商品販売などで収入を増やすことも並行して考えるべきではないか」などの意見が出された。

2-5. 秋季総会議題等

資料9に基づき、竹田庶務理事より秋季年会中に行われる総会における議題・報告についての案が示され、承認された。

2-6. 役員報酬に関する細則案

宮下事務長より、文科省の実地検査からの指摘に応じて制定することになった、「役員は無報酬であり退職金も支払われない」ことを明記した新たな細則案（資料10）が説明され、了承された。

2-7. 百周年記念出版編集委員会について

百周年記念出版編集委員会から出された「現代の天文学シリーズが全巻完結して役目を終えたので委員会を解散したい」との申し出に対し、理事会では慎重を期して結論が保留になっている件で、どう処置すべきかが議論された。このシリーズの索引を兼ねた用語集（天文学辞典）の編集が新たに始まっていることもあり（当日配付資料）本委員会をその目的に移行させて（縮小してでも）継続しても良いので

はとの意見もあったが、「委員会は確固としたミッションをもって存在すべきであり、本来の任務が終わったものははっきり解散させて、もし必要なら新たな委員会を立ちあげるべきだ」との意見が支持を得て、本委員会は今年限りで解散し、関連内規も廃止することになった。

2-8. 天文学会の来年以降の体制と法人移行

渡邊副理事長より、各理事と事務所各部局・委員会との関係を示す組織図、来年度からの新役員の体制と各事業に関する役割分担の構想、が説明された（資料11）。3年以内に決めねばならない法人移行という大きな課題に向けた準備の必要性や現在の体制における問題点を考慮しての試案であるが、これに対して「委員会ではないが理事長・副理事長の重要な職務である各賞への候補者推薦についても役割分掌を明記して欲しい」、「委員会の名称は機能が同じものならなるべく現在と統一すべきだ」などの具体的な注文も出された。来年度からの新役員や各委員会にもこの案に対する意見を募ってこれからさらに詰めていく予定。

〔次回の評議員会について〕

次回の評議員会は秋季年会の会期中9月23日（第二日目）の昼時に行われる。

次々回は未確定だが来年1月29日あるいは2月5日のいずれかを候補としてこれから調整を行う予定。

〔資料〕

資料1. 前回評議員会議事録

資料2. 新委員会委員候補者

資料3. 文部科学省実地検査で指摘された事項ならびに対応処置

資料4. 天文学会の男女共同参画学協会連絡会オブザーバー学会への移行について（報告）

資料5. 来年度理事長について

資料6. 来期新役員・選挙管理委員候補者

資料7. 2011年度事業計画書案

資料8. 2011年度収支予算書案

資料9. 2010年秋季総会議題・報告案

資料10. 日本天文学会役員の報酬・退職金に関する細則（案）

資料11. 日本天文学会運営新体制（案）

当日配付：

(1) 若手の会からの報告（天文学会旅費補助アンケートの結果報告）

(2) 全国同時七夕講演会・出前授業関連資料

(3) 「天文学辞典」について

2010年7月16日

議長：牧島一夫

署名人：家 正則

署名人：伊藤紘子